

中学校社会科教科書（歴史分野）の採択に関する陳情

（文教委員会付託）

受理番号 第 30 号

受理年月日 平成 23 年 7 月 4 日

付託年月日 平成 23 年 7 月 8 日

陳情者
.

陳情原文 各社の教科書は、文部科学省の検定に合格しているとはいえ、重要な案件について、これが共に存立可能な教科書かと思われるほどの差があります。その原因は、多くの教科書が、歴史事実を、わい曲したり、書くべきことを書かずに隠蔽したりしているからです（下記 1～5 参照）。

今回の東北地方を襲った大震災を見ても、高台に住めという先人の残した貴重な教えのおかげで被害なく助かった部落があり、結局何かあれば自力で切り抜けるしか道はなく、近隣諸国はこの時とばかりに領域侵犯を繰り返す、自分たちの住んでいるのはこういう世界であり、役に立つのは日頃は影を潜めている郷土を愛し、国を愛し、伝統文化と国土を守ろうという各々の思いと備えなのだを知る訳です。

- 1 多くの教科書が歴史的事実を、わい曲して記述している。
（例：本当は創氏改名の実態は強制でなかったし、また在日朝鮮・韓国人の実態については徴用で日本に連れてこられて残留していたものは昭和 34 年の時点で 245 人だとわかっている一高市衆議院議員の平成 22 年の国会質問関連より—それも最終的には本人の意思によるものである。）
- 2 多くの教科書が、事実を隠蔽し、結果としてわい曲している（例：第二次上海事変は中国側の仕掛けが実態であり、占領下における GHQ による検閲と言論統制、東京裁判の実態など）。
- 3 学術的に不正確な用語を使用して事実を誤解させる（先の大戦は我が国と敵対したアジア関係国は少数であるにも拘わらず、アジア諸国と大きく表記して大戦がアジア全体と日本の間の問題だったと誤解させる記述など、インドやインドネシアはむしろ親日的であった）。
- 4 ある種の市民団体は近隣諸国に会員を派遣して、歴史事実をわい曲、誇張、一部の恣意的利用等を行い、外国と組んで特定教科書を攻撃するデマゴギーによるキャンペーンを行っている。
- 5 日本が建国以来苦しんで来た華夷思想・冊封体制に関して記述を避けている教科書が多い。このため、歴史観から国防という観点が抜けてしまい、歴史理解はいうに及ばず実社会でも諸外国の留学生に比べて歴史解釈、国際政治解釈、人間解釈が甘く幼稚に落ちる。

上記理由により、これら教科書で学ぶ生徒の正しい知識取得、郷土愛、愛国心の発達が阻害され、我が国の次代を担う若者の健全な発達を著しく阻害することが必
（裏面に続く）

至であるからであります。

つきましては、教育委員会におかれまして、検定に合格しているから良い教科書であると単純に判断されることなく、重要な案件に関しては、個々に教育基本法・学習指導要領の趣旨を精査された上でご検討いただき、採択を決定されるよう陳情いたします。